

第9期第2回河内長野市市民公益活動支援・協働促進懇談会 会議録

日 時：令和2年8月25日（火） 14時00分～16時30分
会 場：市民公益活動支援センター「るーぷらざ」
出席委員：久、上尾、柏木、齊藤、前田、水谷、森田
事務局：緒方、内田、藤本、吉川、山本、阪下
指定管理者：NPO法人はぴえる 西村理事長、新西氏

1. 開会

- ① 開会
- ② 施設案内

2. 案件

- ① 市民公益活動支援センターの第三者評価について
- ② その他

3. 閉会

① 市民公益活動支援センターの評価について

事務局：それでは案件1、市民公益活動支援センターの第三者評価に移りたいと思います。本日は、るーぷらざの指定管理者であるNPO法人はぴえるの西村理事長と新西センター長にお越しいただいております。まずは、指定管理者のNPO法人はぴえるさんから、資料に沿って説明いただきます。そのあとヒアリングを行っていただき、その結果を踏まえて、第三者評価を行っていただきたいと思っています。なお、評価にあたっては、前回懇談会にて配布させていただいた資料を使用いたします。皆さん、ございますでしょうか。申し訳ございませんが、令和元年の市民公益活動支援センター指定管理者制度評価シート、こちらお送りした部分で、1枚目の運営指定管理料の総計の方が誤っておりまして、1157万1千円ですが、7のところを2に、変更よろしく願いいたします。それでは、案件1、久会長よろしくおねがいします。

久会長：はい。今日は、はぴえるさん来ていただいておりますので、まずご説明をいただければと思います。お願いします。

西村理事長：詳細については、センター長がいますので、お願いしますが、去年はコロナの前で、2月に、SDGsのシンポジウムをしましたが、それ以降は、公的なイベン

ト等出来ていない状況になっています。2月以降は、集まることも出来ない事態になっていましたので、それ以前はSDGsを中心として、様々な活動を実施してきましたので、その辺りの報告をしてもらいます。

新西センター長：A3の令和元年度市民公益活動支援センター指定管理者制度評価シートをご覧ください。皆様、もうご覧になっているかと思しますので、細かい数字の部分は割愛させていただいて、少し補足説明をするという形で進めたいと思います。まず1ページ目の基本情報、利用状況は、若干減っています。来館者数1460人減ということですが、これは、ボランティアフェスティバルが2月の第4週日曜日にあったのですが、それが中止になったので、その影響がもろに出ました。そして登録団体数が、プラス7団体、ある程度プラスマイナスしたので実際には7増えたわけではないです。ごめんなさい。説明違います。実際8団体登録が増えて、1団体減っていますので、合計7団体プラスとなっています。利用団体数もマイナス19団体となっていますが、これも、ボラフェスが中止になった影響が大きいと思います。相談件数が減ったのも、2月3月が実質動いてなかったからです。右側のページは、ご覧になっていた通りです。では2ページに参りたいと思います。ソフト事業ということで、我々何をしているかということ、色々な面でボランティアの支援をさせていただいています。その中でも情報の収集、もしくは提供ということで、この取り組み成果と課題の取り組み実績ですが、上から5cmぐらいにありますボランティア市民公益活動紹介冊子作成、特にガイドブックと呼んでいます。登録という形ではなく、ガイドブックの掲載団体ということで、実質は登録団体になるのですが、掲載団体という形で、いろんな情報提供させてもらっています。そして支援センター情報紙、るーぷらざだよりの発行、それからホームページの管理運営、フェイスブックの運用、これはこの年度からではなく、次の年度からですが、インスタグラムとのリンクも進めています。そして、他施設の調査・研究ということで、他のところの研究もしていこうということで、これは和歌山市地域フロンティアセンターと、少し名前分りにくいのですが、和歌山市が直営でやっている市民公益活動支援センターです。そのことで、なんとか情報収集は問題なく行うことができたかなということです。そして、SDGsの啓発など、タイムリーな情報を載せ、色々な紹介をさせてもらっています。ここにも書いていますように、インスタグラムの導入など、徐々にですが、時代にあった情報提供をさせてもらっています。今後としまして、もう少し訴求力のある、インスタグラムだけではなかなか弱いので、他の情報提供もできないかなということで、今はYouTube動画の作成を進めているところです。最後の取り組みの方向性にも書いてあるのですが、情報紙を各団体には配布しているのですが、なかなか末端の個人までは届いてない。要するに我々が発行しているものは、紙媒体で発行しているので、各団体の代表にはいくのですが、その先まではなかなか行きづらいと思います。こういうのはもう少し改善の余地があるかなという

ところでは、本当は、データ媒体で行きたいのですが、なかなか代表の方がデータで渡されても仕方ないという意見をよく聞きますが、今のこの状況下、ネットワーク・オンラインというのが、普及せざるをえない状況になっていますので、この状況を利用するということ言い方は悪いですが、この機会に、紙媒体を減らして、データ媒体に移行していく機会にできればと考えています。次に3ページをご覧ください。学習機会の提供に関する事業ということで、これは色々な勉強会や講座を開催して、かつ、色々な活動団体のスキルアップにつなげています。大きくは三つあるのですが、1つ目のボランティア講座は、「未来の地球と子どもたちのために今できること」ということで、KLSC といひまして、K はくろまる塾、L はる一ぷらぎ、S は社協、C は市ということで、この4者が合同でさせてもらっています。この年度、去年度は開催できました。今年度は残念ながら中止ということになっています。次に、これが一番、学習機会の提供に関しては大きいかと思うのですが、ボランティア活動体験プログラムです。実際にボランティアの活動を体験してもらおうというもので、定例になっています。参加者が639名ということで、かなり増えました。今回かなり増えたというと150人ぐらいですが、約1.6倍の参加者があったのですが、ボランティア活動体験プログラムで初のキックスイェントホールを使用して、これは音楽系のグループで、多くの方に参加いただいています。課題としては、とりあえず人を増やすのが目的に少し変わっている団体も見られるので、少しその辺りは、本来、活動を体験してもらうはずなのに、活動対象を体験してもらう。ボランティア活動を受けている方を体験するという面が少し多く、多くはないのですが、時々見られるので、その辺り、活動体験ということで、活動する側の体験プログラムに、毎年移行をしていただいている状況です。そして、グループ運営講座ですが、グループ運営をより活発に、もしくはより楽に、より効率的にできるようにということで、簡単なブログの作り方ということで実施しました。ここの場所を使いまして、実際に10名、9団体に来ていただいて、そこでブログを立ち上げてもらっています。そして、この右側の成果・根拠にも書いているのですが、パソコンよろず相談ということで、毎月第1第3水曜日の午前中に、ここの隣のスペースで、パソコン関係の団体に来ていただいて、そこでフォローをするということで、細かい各論的なことはそちらでフォローさせてもらっています。今後の方向性としまして、今年度は特にそうですが、やっぱりオンライン、パソコン、このニーズがかなり高まってきて、今までは不得意だからしなくていいと言っていたのですが、これからは不得意であっても、もうやらないといけないことはやっていくという風に徐々に移行していますので、その辺も、今年度の取り組みですが、色々なオンラインの会議や講座等、進めている最中です。次4ページですが、交流促進に関する事業です。何と何の交流かと申しますと、団体間の交流、それから市民と団体の交流、そういう交流に関しての事業です。一番大きいものが、毎年実施している市民まつりです。5月にあるのですが、今年は残念ながら中止になりましたが、去年の5月

に市民まつりということで、テントに大体 600 人の方来られています。そして団体交流会、これは、去年からですけど、それ以前は、団体交流会という交流会を開いていました。前年度から様々な講座、勉強会や相談会等のついでみたいな感じで、その間の時間帯や少し早めに切り上げる等、例えば、2 時間あった場合、2 時間フルに講座をするのではなく、1 時間半は講座として残りの 30 分を交流会ということで、少し場所を変えることでやっていました。これは結構好評で、その講座を聞きに来られる方は、目的意識のある人が集まるので、かなり残られる率も高いです。そして、30 分ぐらいですよと言いながら実質 1 時間ぐらい交流会をしたこともあります。るーぷらざ利用者交流ですが、交流会が何度か出てきて紛らわしいのですが、これはるーぷらざを利用されている方の交流会で、特にもう皆さんもご存知だと思うのですが、来年 3 月いっぱい、この施設から別の場所に移ろうということで、もし、この施設を移転するのであれば、是非ともこの機能は生かして欲しい、この機能は要る・要らないという目的として利用者交流会をしました。先ほど、ご覧いただいた 2 階の貸しブースの利用率があまり無いのですが、それは、この利用者交流会をした時に、ある程度見えてきました。ここを建てた時と、年々状況が変わってきています。昔は、事務所を構えると、ファックスがある、決まった場所がある。所謂事務所がいましたが、それが、主にインターネットがどんどん進んだことによって、今どきファックスを使う人も減ってきて、データのやりとりは全部、例えば Eメールで添付して送るや、LINE に添付して送るである等、そういうふうに変わってきたので、事務所がいらなくなってきています。でも、物はあるのでということで、半分物置半分事務所といった使い方をされています。次は南河内のつどいです。これは近隣市町村との情報交換、啓発活動ということで、実際には、狭山、羽曳野、富田林、もちろん河内長野の 4 市と支援センター、社協さんや関連する部署の方が来られて、情報交換をしています。成果・根拠ということで、いつも場所を大阪大谷大学さんにお借りしていますので、去年、一昨年から、ここの学祭に参加して、一般向けに SDGs の啓発活動ということでさせてもらっています。そして、次の河内長野 SDGs シンポジウム 2020 です。2020 とつけたのは、毎年出来たら良いなと願いを込めて、2020 と敢えてつけたのですが、河内長野市長、それから河内長野市の商工会の会長、それから、泉大津の市民と行政が一緒になった太陽光発電をされている N P O の方をお呼びしまして、SDGs に関してのシンポジウム、パネルディスカッションを行いました。実はこれの直後に、新型コロナ対策ということで、なかなか集まるのが難しくなって、本当は、その次に書いていますボランティア市民活動フェスティバルのプレイベントということでしたのですが、プレイベントだけをして、本番が中止になってしまう結果になってしまいました。今回のボランティア市民活動フェスティバルも、色んな SDGs コーナー、ボランティア川柳コーナー等催しを企画していたのですが、残念ながら中止になりました。中止になった時も、「なんかいろいろ場所・時間を分散させる危機管理も必要やね。」や「でもそ

んなんしなくて済んだらいいのにね」と話をしていたら、まだそれは序章やったということで、現時点で、危機管理というか、実質場所と時間を分散させるという開催方法で話が具体的に進んでいます。だから、以前までの大規模な人が押し寄せるような方法は不可能かと思っておりますので、それなりに出来る方法で、出来るやり方で進めていきたいと思っています。次5ページに進んでいただいて、相談コーディネートに関する事業ということで、色んな相談に来られます。ボランティアをしたい人、こういうボランティアをしようと思っているのですが、何かいい団体ありますか、こんなボランティアをしようと思っているのですが、団体の立ち上げはどうしたらいいでしょうかや、こういうボランティアを探している等、そういうような相談があります。そういうボランティアを欲しいと、ボランティアを提供したいと言う人をマッチングさせるというコーディネートの事業もしています。そして、この取り組み実績ということで、ボランティア市民活動情報提供相談コーナー、先ほどの交流スペースがあったと思うのですが、その少し玄関側の狭いところで相談を承っております。今回は83件、前年が確か100件あったと思うのですが、やはり2月3月から色々な活動が自粛ということで、そういうボランティアを探しているということも無くなりましたので、伸び悩みました。少し下にある市民公益活動支援補助金制度サポート講座ということで、これは、市の事業です。説明会及び活用の仕方を学ぶ講座は実施できたのですが、プレゼンテーション講座は中止になっています。プレゼンテーションをしようという団体は1団体あったのですが、こういう状況で、開催が難しくなりました、今更オンラインの講座にしたいということだったのですが、一旦出したのは、実際に人が集まって、少し小さいフェスティバルをしたということだったので、それがかなわないために取り下げることがありました。その次に、ボランティアサポーター養成講座ということで、ボランティアを知る講座の開催です。これは私が講師になり、河内長野市内の色んな団体を紹介しようと思っていたのですが、残念ながら集まるのが不可能ということで、中止になっています。そして、ステップアップ講座ということで、今よりもさらに団体の活動をステップアップしていただこうと思ひ、必要なお金の集め方をしようと思ったのですが、同じく中止になりました。そして、相談コーディネート力向上のための会員の研修、講習の受講ということで、色んなスタッフが、様々な講座を受講して、スタッフ会議や運営委員会で、フィードバックをしています。そして、その下の相談コーディネート力向上のための勉強会、俗に水曜日の勉強会と呼んでいますが、水曜日にスタッフが出てきて、勉強会を約1時間実施しています。具体的に言うと、ガイドブック掲載団体の活動確認をするのですが、そのガイドブックを読み合わせして、実際には130を超える団体が掲載団体としてありますので、それを1人の頭で網羅するのは難しい。人によったらこの団体知っているやここに書いてあるけど、これはどういう意味だろうと疑問に出てくると、すぐ団体に確認して、誰が聞いても、こういう活動をしていますと答えられるように、そういうような

活動の確認をしています。そして会計、会社の種類、補助金、LGBT、CB・SBということで、色々と水曜日の昼の1時から2時まで勉強会を続けています。前回、今後の取り組みの方向性ということで、出張ボランティア一覧というのがあるのですが、ガイドブック掲載団体というガイドブックがあるのですが、情報量が余りにも多すぎて、見にくいので、出張ボランティアを一覧にして、主に3種類に分けています。学ぶ系、見る系、作る系の3種類に分けていると、こういうボランティア団体を探していますと来られた時にも、それを見たら一目瞭然に分かるという出張ボランティアに特化した一覧表を今年の1月末完成させましたが、残念ながら2月、色んな活動が自粛ということで、呼ぶほうも呼べない、行く方も行けないという状態になってしまいました。それでは次の6ページに参りまして、事務局の事業で、各部会をサポートし、より効果的な事業の実現に努める。今から先ほどの出張ボランティア一覧を配らせてもらいたいと思います。今変えようとしていまして、作った時は、とりあえず一覧表にしようということで、取り組んだのですが、でき上がってから配っているうちに、もう少し字が大きくなれないかと感じました。A4の裏表に纏めることに少し固執してしまったために、見にくいので、A3の裏表にして、もう少し大きい字にしようということで今改造中です。またご覧いただければと思います。先ほどの6ページに戻りまして、取り組み実績のところ、イベント情報の作成ですが、これはこういうイベントありますよという紹介です。これも、実は3月頃から、イベントそのものがなくなってきまして、イベントなくなったら何も掲載しないでもいいのかということで、どうしようかなとなっていたのですが、それやったら、色んな団体の紹介をするために取材に行く、取材ついでに動画を撮ってきて、動画を編集して、ユーチューブのらぶらざチャンネルにアップするために準備をしているところです。そして次のK a w a c h iかわら版ですが、河内長野の市商店連合会が発行していましたが、残念ながら8月号で最終で廃刊となってしまいました。あと、大学生のインターンシップ受け入れということで、大阪大谷大学から、去年2名、一昨年2名、一昨々年は7名を受け入れしています。スタッフ研修ということで、色んな事務局としてのスキルアップということで、これは主に市がやっているものにスタッフ研修として参加しています。そして自衛消防訓練で、これは義務づけられていますのですが、年2回、今年度は具体的に言うと、来月9月の第2金曜日に行います。今後の取り組みの方向性ということで、受託者評価のところ、去年度から図書館との連携を行いまして、いろんな情報交換をしているところであるとか、図書館の情報発信もこっちに掲載等、色んなタイアップを進めています。そして、今後の取り組みの方向性として、毎回少し気になるころではあるのですが、インターンシップとして来てくれた学生のフォローがなかなかしきれていないです。一応、昨年度からラインのグループを作ったのですが、インターンシップ終わったらさようならということが実は多くて、でも、例えば7月8月ぐらいにインターンシップが来て、翌年2月のボランティアフェスティ

バルがあり、それに来てもらうという流れをもう少し上手いこと作れないかなと思っていたのですが、今回インターシップが滞ってしまっていて、大学生も大学に来られない状況が続いていますので、難しい状態です。7 ページの自主事業におきまして、こちらの指定管理をしているNPO法人はびえるそのものが、この指定管理を目的として設立された団体ですので、なかなか自主事業はないのですが、あるとしますと、例えば、市民まつりで、NPOはびえるの活動内容の説明パネル・ポスター等でPRすることやラミネートフィルムやコピー用紙の販売やコーヒーコーナーでのコーヒーの販売などの小さいことを、ちょこちょこしているというところがございます。要するに、今後の取り組みの方向性にも書いているのですが、もともと先ほど話してありますが、支援センター運営が目的で設立されているので、そのセンター運営を離れた目標設定は難しいかなというところがあります。施設改変の話、これもこれ書いた当時からも状況がかなり変わってきて、この施設そのものがどうなるかという話は別にして、指定管理が来年の3月いっぱい終わることは、もう確定していますので、NPO法人としてのミッションについて、ここの指定管理をするだけがこの法人のミッションなのかどうかというところを今見定めているところです。だから、今後の法人としての運営を明確にすることが求められているというのが、我々NPO法人のメンバーとして、岐路にきているかなと感じております。

西村理事長：もともとは、ここのセンターなしで活動していますので、情報・交流・イベント等はやっていたのですが、具体的にどこで何をやるかということは、大きく変わっていかせようかと想像しています。そのために、どこまでできるのか、一番大きいのは、今までこのセンターの保守管理をやっているということもあって、専従スタッフを置いていたのですが、専従スタッフを置いてやるということが可能なかどうかというところもまだ一切決まっています。今後は不透明です。市との調整会議はさせていただいていますが、また、市の方の動きが決まり次第、報告させていただければと思います。去年1年振り返ってみると、コロナ問題は別として、SDGsで出来るとこまで頑張ろうということで、研修の中身を言ってなかったけど、例えば、奈良教育大学のESDの勉強会などに行かせてもらうなど広がりがありました。大阪府大とも連携が出来まして、先日、府大の先生にも来てもらって、講座を実施しました。また、府大の中に大学生のボランティアセンターというのがあります。一貫して言っていますが、何故SDGsに取り組んだかというきっかけもそうですが、実は一ふらぎだけの話ではなく、キックスのくろまる塾との絡みもありました。もともとボランティアを支援しよう、広げようという発想は、どちらかというと、現役を退職したシニア層を対象とした活性化が多かったです。昨今の経済事業もありまして、60歳で退職してもすぐボランティアというより、まだまだ仕事をしないといけない。だから、実際件数も減ってきています。もっと前は、奥さんが連れてきて、「お父ちゃん、家でずっと居る

からなんかすることを探して」とご夫婦で相談に来ることも多かったです。そのような変遷の中で、ボランティアの担い手の裾野を広げないといけないということで、取り組んだことが SDGs です。なぜかというと、キックスで高校生の活動交流がありましたので、高校生の様子を一度聞こうということで、調べてもらいました。国際的な課題に取り組んでいるということで、私もあまり知らなかったのですが、SDGs の取り組みがごさいます。そういう学生の動きを見つつ、若い子が知っていて、年寄りが知らないということはいけないので、勉強を始めましたら、大阪市の企業なども結構取り組んでいることが分かりました。17 の目標は捉えにくいということで、具体的にどうしていかうかという事を考えまして、ここ 3 年ぐらい試行錯誤しています。去年、新西さんも遠慮して言っていなかったですが、SDGs 芝居を作成しました。その紙芝居をやっているという話を色んなところでしていく中で、もう何回した。

新西センター長：大小合わせて 12、3 回やっています。

西村理事長：このような縁もあるのだなと思ったことが、和歌山市の支援センターの方から、ぜひ来てくださいというお話をいただいて、実施しました。非常にわかりやすい SDGs 紙芝居になっています。つい先日も河内長野の公民館長からもお声がかかりました。時間のかかる取り組みですが、徐々に広がりつつあると実感しています。あと 10 年しかないわけですが、10 年後は、また違うものが国連の方から提唱されるかもしれないですけど、コロナなど色んな国際的な課題に対して、我々がここ数年の間に目をむき出して、この河内長野で何をどこまで出来るのかなという事を、取り組んできたのかなと思っています。今後とも、そういう意味では、我々は市内ボランティア団体の連合体で、協議会的な団体ですので、皆さんの希望がある限り、出来ることを実施していきたいです。

久 会 長：どうもありがとうございます。それでは委員の皆さんからご質問あればお願いします。

委 員：今の SDGs を初めて聞いたのですが、地方創生ですか。

新西センター長：地方創生も含んでいますが、サステイナブルディベロップメントゴールズでございます。持続可能な開発目標で、我々だけが言っているものではなく、2015 年の国連サミットで、全会一致で採択されています。30 秒ぐらいで説明しますと、今世界が破滅への道を歩んでいるわけです。それは資源の枯渇であるとか、環境問題であるとか社会問題や経済問題が、このままでは立ち行かなくなるような下降線を辿っているのですけど、それを 2030 年という目標を定めて、その時点で、実際 169 ターゲットあるのですけど、これを全部クリアしていかないと、ここか

ら、もう後戻り出来なくなるよということで、2030年に世界が破滅するわけではなく、ここの2030年までに歯止めをかける。その目標を全世界的に達成しようというそういう動きです。ざっくりした説明ですけど、そのようなものです。

委員：ありがとうございました。るーぷらざさんの存在というのは、センター長にも来ていただいたりして、ご協力いただいていたので、知っていましたが、形のないうものを形にしているので、凄く大変とは思いますが。各論で言って、ボランティアフェスタは自治協働課さんからお誘いいただいて、まちづくり協議会でチラシ作って参加しております、参加者結構多いのですが、ボランティアフェスタとは何でしょうか。市民まつりなら分かるのですが、主管はどこですか。

西村理事長：いきさつから言いますと、20年前に市が市内のボランティア団体に声をかけてフェスティバルしませんかというのがきっかけです。その時に、ボランティア活動推進委員会というのが出来ました。当時はまだ30数団体だと思うのですが、集まって、最初はまだキックスもなく、ラブリーホールで、上映会と活動紹介の展示をやるというのが始まりです。主催はボランティア活動推進委員会です。お金を出してくれているのは市です。キックスが出来てからは、全館借り上げてやることになりまして、センターが出来てからは、センターを中心としてやっています。私たち、NPOはぴえるというのは、もともとはボランティア活動推進委員会です。という流れでございます。

委員：ありがとうございます

新西センター長：わかりやすく言うと、見本市です。

西村理事長：それは、少し違います。生涯学習の見本市と2回だけ一緒にやったことあるのですが、その時は大変でした。1階から全館物凄いことになり、広がりすぎて、その次の年から別々にやろうという事になりました。見本市ということになったら出し合うだけですが、単に展示するだけではなく、大きい目標として各ボランティア団体が、その時に交流して、情報交換しようということがあります。その辺りが見本市と少し違います。

新西センター長：見本市だと、各ブースがあって、そこにお客さんが来て、お客さんとブースだけですが、ボランティアフェスティバルは団体間も交流してもらおう。そこが大きな違いです。

委員：ありがとうございました。

久 会 長：はい。他いかがでしょうか。

委 員：はい。市民公益活動支援センターは、他の団体の支援。所謂、中間支援を使命にしていると先ほど言っていますが、全体の協議会という機能もあると思いますが、色々つなげるというのも支援の一つであると思います。団体の運営というのは、これは、会社ではないので、目的が利益を上げるのではなく、それなりの使命があり、全く同じ考え方の人がだけ集まった団体ならいいのですが、団体の中には色々な考え方を持った人が集まります。特に地域団体やまちづくり協議会みたいところは、色々な考えの人たちが居るので、支援していくことが少し難しいと思うのですが、スタッフのスキルアップやコーディネーターの機能というのは、大事かと思います。だからその辺をどういうふうに養成されるのかということころが、全体を見たところ、去年だけの問題ではないのですが、少し不足しているのかと感じました。先生は、その辺どういうふうに考えているのか確認させていただきたいです。

久 会 長：その辺りの議論は、後程させていただきたいと思います。はぴえるさんの評価に対してはぴえるさんに確認をしておきたいこと、そういう観点で質問させていただきたい。

委 員：分かりました。

久 会 長：ただいまの委員の話でいうと、スタッフさんのコーディネーター能力というのが、十分ではないのではという意見があり、その辺りいかがでしょうかというご質問かと思います。

委 員：そうです。

西村理事長：コーディネート能力ということで言いますと、最初ボランティア活動推進委員会を立ち上げた時に、どういう人たちが集まったかと言うと、各団体の代表の方でしたが、具体的に仕事が進まないため、実務的な人を中心として集まって3部会というのを作りました。だから、もともとコーディネーター能力の優れている人がやるということで始めたわけではないのです。先ほども説明した通り、協議会的な組織ですので、各自の経験を生かしてやってきました。当時から続けてやっている役員さんやスタッフは限られてきました。年齢とともに体調を崩すなど、色々な事情があって、減ってきています。コーディネート能力については、先ほど言いました様に、毎週学習会をしています。学習会は主に何をしているかと申しますと、まずは、市内にどんな団体があるのかを知りましょう。それから、それぞれの団体に直接情報を聞く、インタビューをする等しています。それらを通

して、団体紹介ができる能力を身につけましようとしています。また、広域的な中間支援組織がやっているコーディネート研修に行ってもらいましたが、はっきり言って、たいしたことなかったです。一般理論をしたところで、コーディネート能力は身につかないです。この団体がどんな団体であるかという、自分の中でメニューを持っているから、紹介ができるわけです。そのため、主には団体の情報を身につけようという事で、オンザジョブトレーニングでコーディネーター能力の向上を図っています。コーディネート能力は以上です。確かに人材的なことで言いますと、当初から難しい問題です。なぜかという、限られた人件費しかありません。センター長も副業で家庭教師をしながら、年間200万円そこの給料とアルバイトで来てくれている人は、大体最低賃金に少し毛の生えた程度しか給料を出しておりません。それぐらいの給料と働きの補償はなく、一応、保険は入っていますが、大きい保障もありませんので、1人の人間を、そういう様々な能力を高めて、増やしていくことが、今言いましたように、OJTは出来るけど、様々な研修を受けて、色んな能力を、あちこちの研修に行き、成長しても、その人はいつまでやってくれるのかということは、保証できません。現に、常勤スタッフはこの10年で5人程度変動しています。全国の平均年収が450万ぐらいの時代に、200万そこそこで常勤で働けということ自身は無理と思っていますが、それでも頑張ってくれている人が居ます。センター長の勇気と想像力と少しのお金でもらっているのが現状です。正直、色々な能力高い人を雇用することは、この金額では無理だと思っています。

新西センター長：私は、色々な思惑があったので、機嫌よく来ていますが、作業的にはそこまで難しい作業ではないです。ただ、公益活動に対する認識がある人というところに絞ると、かなりピンポイントな人材ということになります。なかなか現状難しいというのは事実ではありますが、難しいから出来ませんとなると、子供になりますので、その中でも工夫してやっています。在籍しているスタッフは、ほとんどが団体に属している人ですので、団体の気持ちがよく分かります。ただ、気持ちが分かり過ぎても、それが足引っ張ることもあります。ある程度公益活動に対する認識がないと困ります。「ボランティアは、なにが嬉しくてやってんだ」というような人が、スタッフでこられても、かえってマイナスになりますので、もちろんそのような人は最初からここに来ないけど、その辺はニュートラルな立場であれば良いかと思います。公益活動にあまり関心ないスタッフでも、来ているうちに、引きずり込むようにはしています。だからコーディネート力と言っても、結局個人差の能力になってしまいますので、なかなか標準化するのは難しいのが現実です。少し答えになってないかなと思いますが。

委員：少し私の聞きたいこととずれを感じるのですが、これは、やむを得ないことだと思います。コーディネートをするとということがどういうことなのかということ

は、確かに難しいのですが、予算もいることでしょうし、それは、また市のほうにお願いするとします。予算とは別としてコーディネーターというのはどういうことをやるべきなのかということ、少し分かって欲しいなと思います。今お聞きした状況だと、少し私が思っているのとずれがあるなという感じなので、それは、またの機会にお願いしたいです。

久 会 長：ありがとうございます。私から一点確認ですが、補助金の件です。今民間の財団や事業者の方が色んな公益補助をしてくださる仕組みを持っているのですが、そういう情報収集というのは、一定出来ているのでしょうか。

新西センター長：もちろん収集はしていますし、提供もしているのですが、今のところでは誰も手を上げないというのが現状です。

久 会 長：今少しホームページ見せていただいたのですが、補助金情報というのがホームページ上で見えなかったです。

新西センター長：ホームページには掲載していません。イベント情報という紙媒体に載せているだけです。

久 会 長：ということで言いますと、あまり資金的にはお困りでないということですか。

新西センター長：そうですね。もちろん補助金の話は、都度都度しているのですが、「そこまで面倒やったら、せんでもいいわ」という答えがほとんどです。

委 員：補助金というのは、この指定管理料の話ですか。

久 会 長：いや、団体さんがいろんな活動をする際に、必要となる活動資金がお困りの時の補助金です。

委 員：他の団体が。

新西センター長：市であろうが、企業であろうが色んな補助金を世話しているところがあるので。

久 会 長：例えば、今大学も地域貢献を求められていますから、大学と地域の自治会がタイアップすれば、文科省のお金をくれるという制度がありますが、その辺を知っていると、それに乗れるのですが、知らないと、みすみすそれを見逃していることになります。そのような困り事が出てきた時に、ここに行けばこういう補助金の枠組みがありますよというような情報をお届けする事も、ここの大きな役割

です。この辺りがどうでしょうかということです。

委員：要は、情報収集提供に関する事業ということですね。

久会長：それと相談コーディネート業務が重なってきますので、併せて確認させていただいた状況です。

新西センター長：少し補足なのですが、とりあえず私の記憶にある限りで、市がやっている公益補助金制度に関しては相談をさせてもらっていますが、市の補助金以外に、この2年間に、お金が欲しいという相談は、残念ながら1件もなかったです。

西村理事長：私が把握している中ではあるのですが、なかなか難しいのは、2分の1補助という上限が決まっていることが多いので、2分の1は自分が出さないといけないということだと、引いてしまう人が多いかと思います。それと、子供たちの自主参加を応援するようなやつは、結構補助金はあるのですが、その子供たちを楽しませるような事業ということであれば、私の狭い情報量の中ですが、なかなか補助金がない。もっと調べないといけないとは思いますが、今後の課題にしたいです。

新西センター長：確かに、そのサイトにリンクさせることができますので、紙媒体だとリンクというのが出来ませんから、補助金のページだけを作って置いて、期限が来たら削除していけば良いので、今後考えていった方が良いと思いました。

委員：いいですか。はぴえるさんだけではなく、市の方も一緒にやってもらったらいなと思いました。自治協働課としては、情報提供することは、仕事というか位置付けはしていないのでしょうか。国とか府とかの補助金は、市のほうが情報を獲得しやすいというようなことはないのでしょうか。

事務局：市の方に入ってくる情報はあって、それについては、必要に応じて情報提供はしています。

委員：市から情報提供しているわけですね。

事務局：はい。

久会長：はい。他よろしいでしょうか。

委員：今、人件費が700万円ということですが、人員は何名ですか。

西村理事長：嘱託ということで、常勤の職員が1名、他は非常勤が10名です。シフトとしては、三つに割っています。夜勤もございまして、1コマ4時間をそれぞれ交代でやっています。センター長だけは、1日8時間で勤務しています。

委員：分かりました。続けてですが、仕事は割り振りというのほどのような感じなのでしょうか。例えば事業が4つあり、事務局とそれ以外に分かれていることは分かるのですが。

新西センター長：部会でしょうか。

委員：そうです。部会です。

西村理事長：少し二重に考えて欲しいのですが、スタッフは基本的にオールマイティーで携わります。センター長を中心に、誰に何をしてもらうかは考えてもらいます。会の中では、お金をもらってないボランティア的な委員というのがいまして、これが、情報部会・交流部会・学習機会提供部会・相談部会という形で四つの部会で定期的に会議をして、必要なことは、部会でしています。これは完全にボランティアです。

委員：これは何人ぐらいですか。

西村理事長：全部で30人ぐらいですから、各部会の頭数だと10名ぐらいになります。

新西センター長：頭数で言うとその数になりますが、実際は定期的に毎回出てくるといいますと、5、6名です。そこでこの話をまとめて、スタッフが実働部隊になります。

委員：大体わかりました。ありがとうございます。

久会長：はい。よろしいですか。

委員：はい。

久会長：ここではぴえるさんにつきましては、ご退席いただきまして、今回の評価に移りたいと思います。どうもありがとうございました。

西村理事長・新西氏 退席

久 会 長：今日いただいている評価シートの1枚目の右下に、昨年度の我々の評価を書いていたのですが、今年度もこのような形で評価させていただければという事を目標に意見交換させていただきたいです。いかがでしょうか。色んなシート、報告書等を見ていただいて、先ほどはぴえるさんの報告、あるいは、必要な事を聞いていただいて、評価をしていきたいと思います。

委 員：人件費の事を他の方が聞かれたので、敢えて質問しなかったのですが、人件費が710万ということだと、事業の内容は、分からないのですが、やられている内容が多岐にわたります。指定管理がそもそも請負かと考えると、少しこの人件費で、もともと成り立つのかどうか疑問が少しあります。これから評価をするにあたり、特に先生がどのように思われているのか教えていただければと思います。

久 会 長：はい。正直言って、額は多ければ多いほど良いと思います。ただし、人件費込みも含めて指定管理を取っていただいているのであれば、一定の水準レベルはやっていただかないといけないかと思います。だから、そこはお金がないから、やれることは限られているので、そのレベルで良いということでもないかと思いません。

委 員：今、ここをやっていただけていますが、例えば、他の方が、手挙げられるかどうか分からないです。

久 会 長：そうですね。

委 員：内容が当然伴わないと意味がない。私も色んな事業を委託したことがあるのですが、例えば、清掃を委託する場合、実は凄く難しいのですが、非常に綺麗にやっていただいても委託ですし、少し掃いて綺麗にしても委託です。そのために、第三者評価があると思うのですが、その辺は少し、この評価を次にどうつなげていくのかというところは、少し分からないです。

久 会 長：そのあたりは、今日の評価ではなく、今後の指定管理料や中間支援の仕組みに対し、行政がどのように関わっていただけるのかという話です。おそらく、自治協働課も困ってらっしゃるのは、自治協働課としてはもう少しお金あげたいのかもしれませんが、財政課やトップ判断でその辺りは、なかなか難しいというところだと思います。

委 員：そうすると出来るところをお願いするしかないという事になるのでしょうかね。

久 会 長：そうなると思います。

委 員：よろしいでしょうか。

久 会 長：はいどうぞ。

委 員：市民公益活動支援というところから考えた時に、1番の情報の収集提供に関する事業のところ、非常に新しい手法、インスタ、フェイスブックやホームページのところに力を入れていらっしゃる感じですけど、現実的にここに登録とおっしゃいますか掲載している団体は、いわゆる高齢者の方々が非常に多く、私自身も複数団体所属していますが、そこも高齢の方が多いです。その中で、新しい手法が必要な社会になってきているというのは良く分かるのですが、今の現実、加盟している団体の現状と齟齬がないか、あるいは、少し難しさがいいかということをお話をお話を聞いて思いました。だから、先進的なものを見ると同時に、やはり紙媒体の大事さであるとか、そういうところも大切にしていきたいと思えます。もう1点、紙媒体が各末端の個人まで届いていないと記載があるのですが、沢山の団体があり、それぞれ違う組織で、いろんな形態持っている団体があります。月に1回集まる団体もあれば、年に1度も集まらない団体、或いは本名さえも名乗らないようなハンドルネームで関わっているような団体もあります。色んな団体の中で、様々な方法を考えていかないと、少ししんどいかなと感じます。特に、こういう市民を対象とした施設だからこそ、先ほどの説明の中から感じたのですが、この情報の収集提供に関するところでは、現状を踏まえ、もう少し工夫を考えてもらって良いのかなと感じました。

久 会 長：おそらく、色んなものが絡まり合っているのだと思います。つまり、このセンターの必要性を強く感じていると、自分から積極的に情報取りに行くのですが、そこがまだ上手くいっていないので、頼らないという話です。それは色んなものが絡まり合って、センターの認知度或いは必要性みたいなものをあげつつ、一方で情報を流していくというような両輪ですね。

委 員：そうです。だから、そのホームページとったら、インスタだけとかだけではなく、もう少し穏やかなといいますか、現実的なものが良いです。それと、各団体からお金の要望がなかったというお話ありましたが、お金のほしいと思った時に、身についたり、申し込めたり、相談できるような体制になれば良いです。情報誌も一方向な情報発信だけではなく、色んな団体を掲載するとか双方向の情報掲載するような方法も今後考えていただけたら嬉しいなと思います。

久 会 長：先ほどのお話聞いて、私、大阪の茨木で商業の活性化をする会に関係していた

時に、商工会議所の方が同じことをおっしゃっていました。何かというと、経済産業省の補助金とか大阪府・茨木市の補助金はいっぱいあるけど、商業者の方がそこまで面倒くさいこととしてまで補助金は要らないと。活性化するための補助金はあるけど、面倒くさいことをしてまで活性化したくないと言っていました。その状況となんかよく似ているなと思いました。何か新しいことやりたい、頑張りたいというのがあれば、もっと積極的に補助金の方に手をあげてくるはずですけど、今の状況でほぼ満足されていて、そこから先にステップアップしようという団体さんが、あまり現れてきてないのかなと思います。そこを底支えするというのも、このセンターの役割かなと思います。

委員：それは、センターだけではなく、市の方も力を入れて欲しいです。今おっしゃったやる気になるような人なり団体や会社を増やす。それが不足しているということですね。

久会長：その辺りは、また事務局にお尋ねしたのですが、なかなかお任せをしている部分があるので、どこまで口出ししたらいいかというような役割分担がありますから、すごく難しいのではないかなと思います。市役所自らやれるのであれば、どんどんやったら良いのですが、センターにお任せしている部分が多いので、本来センターが動いてよというのが本音ではないかと推測します。

委員：そうですか。そういう意味ですよ。その部分では、協働促進懇談会ですので、我々の責任でもあるのかも知れないです。違いますか。

久会長：私推測ですので、その辺りはどうですか。

事務局：中間支援組織にお願いしている大きな理由の一つとして、行政が直接支援することによって、例えば、行政との直接のやりとりの中で、依存心が働くなど色々なことがあるので、一旦どっちの味方にもなれるような中間支援組織が間に入って、時にはクールに指導させてもらいながら、自立して運営できるような団体になってもらうというところで、中間支援組織の役割があるのかと思います。そういった意味合いで言うと、行政も目を放さないですけど、話をしながら実際問題そういう動きをする中間支援組織に、そういった役割お願いするというのは、基本的な原則のもとにはあるかと思っています。

久会長：はい。他いかがでしょうか。

委員：先ほど、はびえるさんの西村理事長とか新西センター長にお話いただいて、一つ気になった点ですけど、市民公益活動支援センターで、よく勉強会をされてい

るとかOJTという言葉が出ていて、非常に大事な部分と思っているのですが、河内長野市内だけで会議をしていると、もう少し別の発想という部分が薄くなるのかなと思っています。なかなかOJTで外に出て、他市さんの意見を聞くなど、そういったアイディアは、他市は似ているけど、こういう事もやっているという事も、今後絶対必要になってくると思うので、きっと予算もあるのかもしれないのですが、そこの役割もできれば、違う視点から物事を見るということも含め、動きは大事かなと思います。少しOJTという言葉聞いて、そう思っているのかと少し思いました。

久 会 長：地域福祉の世界は、今すごく最先端の情報で動いてらっしゃる地域もありますので、社協さんも色々全国大会に行く、或いは視察に行くということを繰り返されていると思うので、市民活動もこの数年かなり状況変わっています。外の情報をどれだけ知っておられるかが重要なのですが、今日の回答でも、その部分が見えづらかったです。ちなみに、私富田林もお付き合いしていますし、河内長野もお付き合いしています。昨年度の評価の時に、富田林のセンターのスタッフさんは、相当頑張っていますよという話をさせてもらいました。その時に、そんなに変わりませんよという話もありましたが、具体的に言うと、今年度、富田林の支援センターを運営されているきんきうえぶさんは、富田林もやりつつ、泉大津市の市民活動センターの指定管理を取られました。それだけ情報収集や勉強をされて、実力をつけてこられたので、公募でも最高得点をきちんと取ってきています。はぴえるさんもそこまで行ってほしいと考えています。先ほど委員の質問とずれていますよというお話がありましたけど、私もずれていると思いました。つまり、先ほど委員の思っらっしゃるコーディネート、はぴえるさんが理解出来ていなかったということです。そこは非常に問題です。

委 員：そう思いました。

久 会 長：いわゆるマッチング、団体と団体を繋ぐことがコーディネートとおっしゃるのですが、それだけではないです。先ほど委員のおっしゃっていたコーディネートは、様々な価値観をお持ちの方が集まった時、例えば、その会合をした時に、どうやってそれを乗り越え、調整して合意形成に繋げることを応援するのが、コーディネーターの役割ではないか。そういう能力をスタッフさんお持ちですかという質問をされたと思っています。

委 員：はい。まさしくその通りです。

久 会 長：それが中間支援のスタッフとしては重要な役割だと思って、そこをちゃんとの確に答えられないということは、中間支援を担っている方にとって、かなり致命

傷な回答ではなかったかなと私は思いました。

委員：先ほどのお話を聞いていると、新西センター長が、もしおられなくなったら、存続できないと思ってしまいました。アルバイトの方が、そういった能力に長けておられるとはあまり思いにくいです。だから、そこが課題だと感じました。

久会長：あとはいかがでしょうか。昨年度も申し上げたのですが、SDGs は一つのテーマ・道具ですけど、そこから本来の中間支援というものがストーリーとして見えない。SDGs を広げるだけであれば、違う団体さんでも良いわけで、SDGs をテーマにして良いのですが、そこは中間支援に持って行っていただきたい。例えば、具体的に言いますと、SDGs の中には、男女共同参画であったり或いは人権の問題であったり、経済の活性化の問題もあるわけですから、それぞれ別々のテーマで動いている団体さんを SDGs という形で繋いでいくということになっていけば、多分中間支援の役割としては担えているかと思います。あなたたちが別々にやっていることは、実は SDGs という一つの中で繋がっていて、それが連動することによって、持続する社会が実現できるのです。そのためには、河内長野市内の分野を越えた団体さんが手を繋いで欲しいですというメッセージが、きちんと送れていれば、良いと思います、あとはいかがでしょうか。私が気になっているのが、受託者評価が A で、行政評価が B になっているところがいくつかあるのですが、行政のコメントを見ていただければ、分かるのですが、このあたりの A と B のずれで、事務局からの説明あればお願いします。

事務局：終始一貫して思うことは、中間支援組織の役割ということの中で、いきさつを大分申されました。それぞれの団体の集合体という話があって、どちらかというと、団体の集合体で、何か事業や取り組みをやりたい人が多い中で、中間支援組織の役割という事を、しっかり落とし込めて動いているのかなということがベースとしてあります。だから、色々やる中で、ここは中間支援として、しっかりと取り組まないといけないところを、やりたい・興味があるので、それを一歩出た活動をしてしまうことや、例えば、もう少し広くやって欲しいのに、その部分については、凄く狭く特化してしまうというような、不安定さがあるのかなと思っています。情報一つとっても情報を絞ってしまうという部分があります。先ほどの SDGs の話でいくと、事務局としても SDGs の話が出た時から、ずっとその話をしております。ある程度軌道修正をしてきていますが、ある段階で、ポロっと SDGs の啓発の方に力が入ってしまっていて、中間支援については、少し後回しになってしまっているのではないかと思います。A と B の違いというのは、その辺の認識の違いという部分が大きいのではないかと思います。それと、それに関連するのですが、中間支援組織で言うと、基本的な事務というような部分をしっかり担う部分も、やりたいことが中心に動く部分があ

って、そもそも法人として、例えば労務とか財務とか、色んなきちんとしていないといけないスキルがあるのですが、その辺が少しまだ弱いのかなというところが、私共としては、評価を落とさざるをえないような理由にもなっています。こういった部分が評価の違いです。

久 会 長：その違いを説明するとすれば、頑張っておられるけど、頑張っている方向が違っているため、なかなか評価に出てこないということですね。中間支援という本来の目的を達成して欲しいと感じました。来年度以降は、場所も変わるし、指定管理の仕方も変わりますので、今回の評価をどのように活かせてもらえるかという事がまだまだ見えないところではあります。我々としては、皆さまから頂戴したご意見を事務局と私の方で作成させていただきまして、出来上がった段階で、皆さまに見ていただきたいと思います。それでは続きまして、その他ですけれども、委員の方からはございますか。

③その他

委 員：移転するという話のその後はどうなりましたか。

事 務 局：はい。最後に少しお話ししようかと思っていたのですが、説明を求められましたので、お話をさせていただきます。まず前回の会議の中で、る一ぷらざの施設については、機能移転をするというお話を少しさせていただきました。それにつきましては、今もその方針で変更はありません。今評価していただいた評価について、どうなるのでしょうかねというようなお話もありましたけれど、基本的には、ここの機能を移転するという。ここの機能というのは、何もここでないと絶対駄目というわけではなく、他の場所に移ったとしても、同じようにパフォーマンスが出来るような、そういったところでやっていけたらというふうに思っていますから、今日いただいた意見については、次の場所に移ったとしても生かされるというふうに思っておりますので、その辺はご安心いただけたらと思います。ただ、今後につきましては、担い手とかそれから担ってもらい方という事は変わってくると思いますので、評価の仕方については、全く同じ形でいうのではなく、改めて、こういった形が一番有効に運営に繋がるのかという事も事務局の方で検討させていただきたいというふうに考えております。それと具体的な今の進捗状況ですけど、実際問題、前回は場所がどこさえも言えなかったのですが、先週に議会の方に一旦説明を差し上げて、場所については、自治協働課だけではなく、企画サイドでイズミヤの4階をどう活性化していくのかというプロジェクトが進んでいます。その中の一つの機能として、る一ぷらざの機能を移転することで説明をさせていただいています。これについては、また9月の議会の中でも議論されるかというふうに思っておりますけど、一旦ですが、どこでとい

う部分については、一定方向性を議会の方にも説明しておりますので、今こうやって披露させていただけていますが、実際問題、中身についてどう役割分担するのかとかそういった部分については、今まさに協議している最中でございますので、申し訳ないですが、まだ言える状況ではないということで、方向性だけそうなったということだけ申し上げさせていただこうと思いましたので、宜しくお願い致します。

久 会 長：よろしいですか。場所が一定見えただけでも、イメージしやすくなったのかと思います。

委 員：そこに、これからどうしていくのか関わっているのは、政策企画課ですか。

事 務 局：政策企画課が市ではメインで進めています。私どもも、そこに機能を移転するので、関わらせてもらっています。

委 員：市以外ではどこが関わっているのですか。

事 務 局：色々なところが関わっています。大学もかんでいますし、社会福祉協議会もかんでいます。いろんなどが関わっています。

委 員：はびえるさんは関わっていないですか。

事 務 局：はびえるについては、このテーブルではなく、別の協議で進めています。今 4 階全体をどうするかという議論ですので、ここのセンター機能についてどう上手いことしていくかという事業については、4 階の事業と調整しておりますので、自治協働課の理屈だけではなく、4 階全体をどうするかということで今テーブルが進んでいます。それが、方向性は定まっていますが、中身についてはもう少し管理運営をどうしていくかという事を、まさに調整しているので、現状ここで言えることは以上でございます。

委 員：はい。ありがとうございます。

久 会 長：折角の機会ですから、そこに移転するに当たって、皆さんからのご要望とかアイデアとか、まだ固まっていない段階ですから、色々聞いてもらえるかと思えます。

委 員：キックスが出来た時にも議論したのですが、駐車場が有料になると、市民が利用しないのではないかと。今、イズミヤは有料ですから 4 階が出来たとしても、

来られた方が、駐車料金を払わないといけないと、結局、利用が低調になるのではないかと思います、その辺はどうでしょうか。

事務局：はい。そこも調整・議論の一つになってくるかと思います。そういった利用促進の観点ということが一つです。ただ、利用者の方についてシャワー効果ということで、イズミヤさんの方にもメリットがないといけません。実は、イズミヤの4階スペースは、少しランニングなど掛かる費用はあるのですが、イズミヤさんが配慮してくださり、賃料は無料です。そういう側面もありますから、そこは利用者の事も考えないといけないですけど、全体のバランスを見ながら進めていかないとけない取り組みかなということなんです。

久会長：はい。可能なら2時間ぐらいは無料処理出来たら有難いというお話なので、イズミヤさんとの調整の中でお願いできたらと思います。

事務局：はい。分かりました。

委員：この会議は、年3回ですか。今日が終わったら、来年の2月頃ですか。

事務局：また決まってないです。例年ですと3月ぐらいに、その年の集大成ということでご報告差し上げるのですが、この件もありますので、次の会議の日程については、調整させていただいて、また報告させていただきます。

委員：3回だけではなく、懇談会をもう少しやっていただいた方が良いと思います。これは、予算的な問題で出来ないと仰るとすれば、11月とか年内にしていだければ有難いです。先生は難しいかも知れないですが、もっと自由に話し合いが出来れば良いと思っています。

事務局：懇談会の役割の部分で言うと、密に集まって密に意見をちょうだいするという機会かどうかという事もあり、確かに本当に必要であれば、他の予算を流用してやるということもあるかも知れないです。例えば、市の中での他の懇談会では、年に1回大きなところをご説明して評価する事も多いですので、この懇談会は多いほうだと思います。

委員：前回配布して提案したのは、総合計画の中で「協働」というのが、基本政策の一つに位置付けられていて、今回は、はびえるさんの評価をしたけど、市として協働がどれくらい進んだのかということも必要かと思います。第5次総合計画の前期が、今年度で終わりますが、「協働」というのが、5年間でどれくらい進んで、今後それをどうしていくのかということを検討することも、この懇談会の役目で

あり、行政の評価も一緒になってやれば良いと思います。

事務局：そこはおっしゃる通りだと思います。今総合計画の後期計画を見直ししてこういうタイミングですので、そういった意味でも、例えば、タイミング的に来年3月に間に合わないのであれば、もう少し早いタイミングで、こういう案で出ていますが、どうでしょうかというような機会も必要かもしれないです。そこは、私どもとしても、何をご審議いただくかという事を検討して、機会を設けていければと思います。

久会長：この期はまだ1年経っていないので、今後どうなるかというスケジュールを皆さんにお示しできてないために、そのような懸念があると思います。課長が仰った様に例年3月に実施している懇談会は、委員からお話のあったような内容です。つまりこの1年間、市役所として協働をこのように進めましたということを報告いただくので、それに対して我々が色々意見を出します。さらに、タイミングとしては次の年の計画をお出しいただきますので、そこでもう少しこうしたら良いというようなアイデアもいただけるような機会があります。次の3月頃の懇談会では、今のようなお話をさせていただくと思います。まちづくり協議会がどのような状況になっているかという事も、毎年報告いただいています。

委員：分かりました。

久会長：よろしいでしょうか。時間もきましたので、案件としては以上となります。それでは、事務局にお返しさせていただきます。

事務局：今後は、本日の第三者評価につきまして、先ほど久会長からも言われたとおり、会長と事務局でまとめさせて頂きまして、委員の皆様にご確認頂いた後に、市のホームページの方に掲載させて頂く事になります。以上をもちまして、第9期、第2回市民公益活動支援協働促進懇談会を終了させていただきたいと思います。委員の皆様におきましては、長時間に渡り、ありがとうございました。

委員：ありがとうございました。